

やがて向こう三軒両隣の「緑」がつかなくて、愛着の街並みになることを夢見ている



田瀬 理夫 (造園家)

ここに登場する「上目黒住宅」と「八木邸」とは、ご近所、向こう三軒両隣のひとつ、という以上に何の関係もなかったのですが。経過の先を語れば、やがて2軒は、造園家・プランタゴ代表の田瀬理夫さんによって手をつなく「緑」になりました。

住宅の建て替えを先にしたのは、「上目黒住宅」の方でした。

「上目黒住宅もアネックスの[アーバンハウジング]事業のひとつなんです」と、田瀬さん。

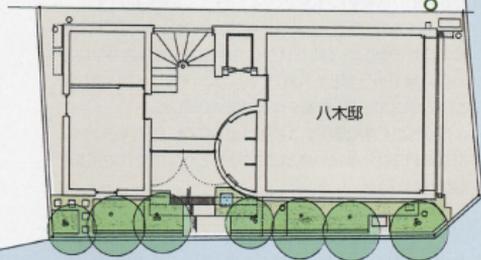
[アーバンハウジング]がテーマにしているのは、「都心に住むシングル&ディンクスのための居心地のいい住まいづくり」。将来の人口動態を見ても、もう10年もすれば単身世帯の構成比の方が標準世帯より多くなる。単身者用にもまじめに設計された住宅がもっとあってよいはずだ。しかし、現実にはない。なければ自分たちの手で創れたい。というわけで、その企画コーディネートを手がけられたのが(株)アネックスの宮田生美さんです。かつては大規模開発や街づくりのコンサルティンクに携わってこられたのですが、「数年前からコンサルタントという枠を越え、自主事業を手がけるようになっていく」とのことです。その住宅版のプロトタイプになったのが、ご自身の住まいでもある「上池台THS(Twin House for Single)」。1軒の小さな戸建住宅のような建物を上下階で2つに割って、その一方に宮田さんご自身が住まれ、一方を会社所有の賃貸にするという、2戸しか

ない「究極の集合住宅」です。

さて、2番目が今回の主役になる「上目黒住宅」。やはりアネックスのスタッフのひとりである今井さんのご両親の敷地に、[アーバンハウジング]を実践。建て替えによって、3世帯の住居になりました。1階に80代のご両親、1階+2階を分節して、50代のディンクス夫婦(ベトナム人留学生の里親でもある)、40代シングル女性(ペットに大型犬2頭)という3世帯の構成です。

造園は、道路側と隣接駐車場に面したL字型の敷地に植栽を施しています。南西の道路側には玄関への導入路に木製のガラガラ門を配し、それとは別に低い木戸を設けて、庭からのアプローチも確保。隣の駐車場に面した南西の庭はヤダケで軽く視線を遮り、木製デッキとベンチを設けています。デッキとフロンカゴ(金網カゴ)の土の表面をゾロ(面一)にすることで、狭いスペースなのに不思議な広がり感が創出されています。

心地よい緑が、人のこころを開かせる。  
手をつなく「緑」の葉脈構想



① 道路をはさんで手をつなく2軒の「小さな緑」



田瀬 理夫 (たせ みちお)

1949年東京都生まれ。千葉大学で都市計画と造園史を専攻。1973年(株)富士植木入社。1977年プランタゴを開設し、現在に至る。1978~86年SUM建築研究所の一連の集合住宅プロジェクトに参加。主な仕事に、熱帯ドームセンター、コートハウス国立、5人の屋臺ヶ島(日本造園学会賞受賞)、アクロス福岡(福岡市都市景観賞、Business week/Architectural record 2000建築賞、エコビル大賞、受賞)、立教大学読蔵野新座キャンパス、アミュゼ伯、IVY STRUCTURE、ピオスの丘、アクアマリンくしま、読売広告社、相模女子大学マーガレットホール、特種製紙総合研究所Fam、地球のたまご、などのランドスケープ作品多数。



アクロス福岡

(株)プランタゴ

〒177-0041 東京都練馬区石神井町1-26-11 イヌイビル3F  
TEL (03) 5910-2071 FAX (03) 5910-2072  
e-mail: plantago@carrot.ocn.ne.jp



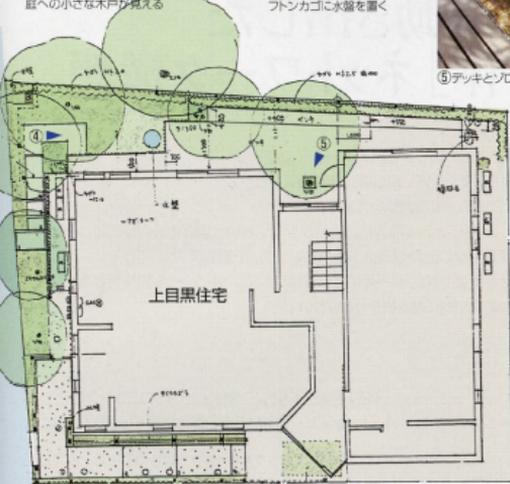
③フンカゴでつくられた階段の先に庭への小さな木戸が見える



④デッキとソロになっているフンカゴに水盤を置く



⑤デッキとソロになっているフンカゴ



やがて季節がめぐり、上目黒住宅の植栽に訪れる四季の変化を眺めていた人がいました。東側斜め向いの八木さんです。猫の額のような小さなスペースでも、ブロック壁で囲まずに、緑豊かなオープン外構にするなどの工夫によって、春には眩いばかりの新緑、秋には燃えるような紅葉・黄葉が、道行く人々とともに愉しめることに気づかれたのです。

上目黒住宅とほぼ同時期に建築された八木邸は、コンクリート打ち放しのシンプルモダンな外観。ご入居の後も、北東の道路との間に残された敷地にどんな外構プランがいいか思案されて、工事を保留されていましたが、ようやく決心。

「お宅(上目黒住宅)と同じような植栽を頼みたいのですが…」と今井さんに相談されました。そこで再び田瀬さんが登場。

1年目は、道路沿いの外構の修景。2年目は、金網とツル植物による壁面の緑化+屋上の草屋根化を計画。なかでも草屋根とトップライトを夏場だけ植栽によって影にするアイデアは実に効果的で、夏を涼しく過ごせたそうです。

というように経過があって、「上目黒住宅」と「八木邸」の小さな緑が手をつなぐことになりました。やがて向こう三軒両隣の「緑」、その先の街路樹や公園の緑の葉脈(ネットワーク)が浮かび上がってくることを夢見て、田瀬さんはいつも造園設計に取り組んでいるのだそうです。心地よい景観こそは、

ウエルカム・トゥ・マイ・コミュニティの分母であるにちがいません。

もうお気づきになったかもしれませんが、「上目黒住宅」と「八木邸」などの小さな緑の街並みづくりに活躍しているのは、フンカゴと呼ばれる六面体の金網カゴ「ガビオン(GABION)」です。中詰めするものは、石、コンクリート廃材、内張シートを工夫すると砂、土、人工軽量土壌などなんでも可能。アクアソイル(人工軽量土壌)を充填すれば、軽量化でき、屋上緑化や人工地盤を植生地にすることができるすぐれものです。側面も植栽可能なので、たとえば立方体のガビオンだと平面積の5倍の植生地ができることになります。

そのガビオンに地域の在来種を植栽したものが、「5×緑(GOBAI MIDORI)」というブランドで、すでにガーデニング市場で動き出しています。仕掛ける人のひとりが先に登場いただいたアネックスの宮田生美さん。「5×緑」は、従来のプランターやコンテナではできなかった4つの側面もツル植物や芝草などの緑を植え込むことができるようになり、都会の狭小部分やバルコニー、ルーフに豊かな緑を効果的に生み出すことができます。公共的な事業でも実績を重ねつつあります。

郷土種による混植は在来草木まで無農薬の里山で生産されており、劣化した里山のエコロジーの復活と地域経済活性化も視野に入れた事業展開を志し、同時に「都市と里山双方の環境を回復することをめざしている」とのことでした。



「5×緑」の里山コニユツのひとつ。  
※30cm CUBE

「5×緑(GOBAI MIDORI)」についてのお問い合わせは  
株式会社アネックス 5×緑事業部  
〒150-0013 東京都港区赤坂三丁目3-33-3  
TEL. (03) 3280-2041 FAX. (03) 3280-2045  
e-mail: mail@5xmidori.jp

